

## 1年1組 算数科 授業考察レポート

## 授業の視点

## (1) 子ども同士のかかわり方

## ○ペア学習の人数

テープに長さを写し取る「自分で(友だちと)考える」場面では、2人で声を掛け合いながら仲良く活動できた。長さを確認しながら、協力して活動を進めているグループも見られた。テープに長さを写し取る本時の活動は、押さえる・切り取る等2人でなければできない活動であったので、必然的に子ども同士のかかわり方が見られた。

## ○発言のつながり方

「学び合う」場面では、子どもたちの自然な反応が多く、友だちの意見を聞き、つぶやいたり返事をしたりする様子が見られ発言につながりがあった。教師は、日頃から子どもたちの話をよく聴くことで、子どもたちは安心して意見を言えるようになる。また、良いところをすかさず褒めることも自信をつけることにつながる。

## (2) 子ども自身の変容につながる振り返り

7月頃から段階的に「まとめる」場面を大切にし、学習の振り返りを取り入れている。本時では、長さ比べの結果を確かめ合うことができた。

振り返りは、学習内容についてだけでなく学習態度についても行うことが大切であり、友だちと力を合わせて学習できたかについても振り返りをすれば、よいかかわり方について褒め広めていく機会にできたであろう。

## (3) 学習材とのかかわらせ方

## ○素材の選び方

前時の学習後、子どもたちは教室の中から調べたい物を幾つも見つけ出し、ノートに書いていた。その中から、動かすことができない物や予想が付きにくい物を本時の素材として4つ選んだ。「つかむ」場面では教師が突然「○○のながさくらべをしよう」と学習課題を提示するのではなく、子どもたちの興味の中から素材を選び提示したことで、子どもたちは意欲的に課題解決に取り組むことができたようだ。

## ○「長さくらべ」の学習で大切にしたいこと

この単元のねらいは、物には長さがあることがわかることである。物には、縦・横だけでなく斜めにも長さがある。「何(どこの長さ)を取り出して比べるのか」をはっきりさせなければならない。1年生では、いろいろな物を測る体験を十分にさせることが大切であり、そのことが2年生の長さの学習の基礎となる。

## (4) 教師の支援と評価

## ○何をするかはっきりしていることが大切

「自分で(友だちと)考える」場面では、活動に入る前に代表のペアの児童に例示してもらった。テープに写し取る方法を具体的に理解できるようにするだけでなく、ペアのかかわり方についても示唆ができることをねらった。代表のやり方を見たことで、どの子も何をしたらよいかをはっきりし、自分もやってみたいと意欲的に取り組むことができた。

## ○わかりやすくするための工夫

一目で違いがわかるように、調べる物によってテープの色を変えた。また、テープの色の提示の仕方においても工夫をした。テープの使い方や戻し方、ワークシートへの書き方等、指示が多かったが、1年生にとっては特に的確な指示は必要なことである。

